

「人間重視の道路創造研究会」における 検討状況について

国土交通省道路局路政課

1. 研究会設置の背景・目的

地球温暖化問題への対処は人類共通の重要課題であり、地球環境と共生する低炭素社会構築のために環境負荷の少ない都市構造への転換が必要となっている。一方で、少子高齢化に伴う人口減少社会を乗り切るためには、国民全員が参画した持続的な経済成長が不可欠であり、にぎわい形成等による地域の活性化とともに、高齢者等に優しい安心・安全・円滑な移動の確保が求められている。

これらを背景に道路に関する国民のニーズは多様化しており、それに対応して道路空間の利用形態や整備方策を見直すことが求められている。すなわち、道路空間を自動車本位から人間本位へ転換するために、①歩行者・自転車にとって使いやすい道路空間の充実、②路面電車・バス等の公共交通への道路空間の提供、③交通機能のみならず

アメニティ性の高い公共空間としての道路機能の向上（道路空間と沿道空間を一体的に捉えた地域公共空間機能の発揮）、といった道路利用形態の多様化を図る必要がある。その際、これまで「つくる」ことを主眼に整備・蓄積されてきた道路ストックを「上手に使う」観点から、既存の道路空間を再配分・有効活用するための方策を検討するとともに、地方公共団体・企業・地域住民など多様な主体の活動の誘導・促進方策を検討する必要がある。

以上を踏まえ、道路利活用ルールを再点検するとともに、道路空間における多様な主体の活動を促進する方策等について、有識者等からの意見を踏まえて調査検討することを目的として、人間重視の道路創造研究会を設置したものである。

2. 研究会での検討状況

昨年9月19日に第1回研究会が開催されて以降、これまで8回にわたり議論を重ねてきたところである。

この間、4回にわたり計7名の学識経験者や関係団体から、「歩行者、自転車、公共交通を重視した道路利活用について」（第2回）、「アメニティ性の高い公共空間としての道路利活用について」（第3回）、「道路空間における多様な主体の活動の促進について」（第4回）、「人間重視の道路法制について」（第7回）、各テーマ毎にヒアリングを行い、自動車を円滑に通行させるだけでなく歩行者・自転車など他の道路利用者や地域住民の生活の質を高めるような道路機能のあり方等について意見交換を行ったところである。

また、昨年12月12日に開催された第5回研究

会においては、それまで頂いたご意見等を踏まえ、今後の検討の方向性について論点整理を行ったところである。

年明け以降は、それまでの議論等を踏まえつつ、「道路機能を多様化するための枠組みについて」、「生活道路を確保するための枠組みについて」、「路面電車等に関する現代的ニーズに対応するための枠組みについて」の3つのテーマについて、さらに議論を深めてきたところである。

今後は、有識者等から頂いたご意見等を踏まえた上で、重点的に検討すべき課題やその対処方策のあり方等について、本年6月を目途に報告書を取りまとめることとしている。

◆論点整理

主要テーマ		検討の方向性
歩行者、自転車、公共交通を重視した道路利活用	安全快適な歩行者・自転車通行空間の確保	・交通機能を確保の上、自動車と歩行者・自転車・公共交通が共存するための道路空間再配分の仕組みが必要 ・生活道路を確保するための「道路」の概念の検討や合意形成の枠組みの整備が必要
	公共交通を重視した道路空間の再構築	・路面電車等に関する現代的ニーズに対応するための仕組みの検討が必要
アメニティ性の高い公共空間としての道路利活用	道路の空間機能の強化	・道路の公共空間機能の位置付けの検討が必要 ・地域の実情に応じて、道路空間を柔軟に利活用し、空間機能を向上させるための制度整備が必要 ・道路と沿道を一体的に整備・管理するための枠組みの整備が必要
	道路空間の立体的利用	・地域の実情に応じ、一般道路や既存道路の立体的利用が可能となる仕組みの検討が必要
道路空間における多様な主体の活動の促進	道路整備・管理への多様な主体の参画	・沿道コミュニティレベルでの道路整備・管理に関する地域住民等との協働の枠組みの整備が必要
その他	環境・景観への配慮等	・道路環境の整備及び保全等のための枠組みの検討が必要

3. 研究会の開催経緯と今後のスケジュール(案)

- 第1回 平成20年9月19日
道路空間の利活用に関する現状と今後の視点について
- 第2回 平成20年10月21日
歩行者、自転車、公共交通を重視した道路利活用について
- 第3回 平成20年11月7日
アメニティ性の高い公共空間としての道路利活用について
- 第4回 平成20年11月25日
道路空間における多様な主体の活動の促進について
- 第5回 平成20年12月12日
論点整理
- 第6回 平成21年2月2日
道路機能を多様化するための枠組みについて
- 第7回 平成21年3月3日
生活道路を確保するための枠組みについて
- 第8回 平成21年4月14日
路面電車等に関する現代的ニーズに対応するための枠組みについて
- 第9回 平成21年5月15日
報告書案(骨子)について
- 第10回 6月目途
報告書案について

4. 委員名簿

- (委員長)
磯部 力 立教大学法学部教授
- (委員)
太田 和博 専修大学商学部教授
小幡 純子 上智大学大学院法学研究科教授
屋井 鉄雄 東京工業大学大学院
総合理工学研究科教授
米田 秀男 東京都建設局道路保全担当部長
- (臨時委員)
久保田 尚 埼玉大学大学院理工学研究科教授
(第2回出席)
堀江 裕明 全国路面軌道連絡協議会専務理事
(〃)
岸井 隆幸 日本大学理工学部教授
(第3回出席)
齊藤 憲晃 財団法人道路空間高度化機構技術
参与(〃)
荏原 明則 関西学院大学大学院司法研究科
教授(第4回出席)
中島 憲一 NPO法人はな街道理事(〃)
洞澤 秀雄 札幌学院大学法学部講師
(第7回出席)
(五十音順(臨時委員は出席順)、敬称略)